

富山県有権者の政治意識に関する調査

Survey of Political Ideology in Toyama

大川 公一
OHKAWA Kouichi

目的

この小論は、2001年に単純無作為抽出によって行われた県内調査のデータに基づいて、県内有権者の政治意識ならびに諸要因との関連を検討し、しばしば保守的と指摘される県内有権者の意識の実態を考察することを目的としているものである。ただし、調査項目が多く、さまざまな角度からの集計がすべて終了しているわけではないので、ここでの考察は限られた角度からのものにならざるを得ないことをあらかじめ断っておく。より多角的な集計と分析は、機会をあらためたい。

ここでの主な目的は、「保守革新」という政治的な意識の持ち方が、その内実としてどのような特徴を持っているのか、意識の持ち方による明らかな差異があるのかどうかを検討し、そのことの結果として、政治的な対立の基本的な図式としてよく用いられる「保守革新」という枠組みが、現在でも有効なものであるのかどうかを考察することにある。ただ、紙幅の関係があり、それぞれのデータについて簡潔な記述にとどまらざるをえない。

調査内容

調査票の項目は、次のとおりである。

- 1 ア あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか。
a 20代 b 30代 c 40代 d 50代 e 60代~
- イ あなたの性別はどちらですか。（男性 女性）
- ウ あなたの学歴は次のどれにあてはまりますか。
a 中卒 b 高卒 c 短大卒 d 大卒 e 大卒以上
- エ あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。
a 勤め人（製造業・サービス業） b 自営業 c 農林漁業 d 学生 e 主婦
f 専門技術職 g 教師 h その他
- オ あなたが現在お住まいの所での居住年数はどのくらいですか。
a 3年以下 b 4年から10年 c 11年から15年 d 16年以上
- カ あなたの父親また母親の政治的立場についてどう思いますか。
父親（保守的・革新的・わからない） 母親（保守的・革新的・わからない）
- 2 よく「保守的」とか「革新的」という言葉が使われますが、あなたの政治的な立場は次のどれにあたりますか。
a 革新的 b やや革新的 c どちらでもない d やや保守的 e 保守的 f わからない
- 3 ア あなたは、「町内で集める寄付について、その趣旨に反対でも、つきあいを保つために出した方がよい」と思いますか。

(はい いいえ)

イ あなたは、「親孝行や目上の人に対する尊敬は大切だ」と思いますか。

(はい いいえ)

ウ あなたは、「人の長になる人は優れた人だから、その人の意思を尊重すべきだ」と思いますか。

(はい いいえ)

エ あなたは、「優れた政治家がいる場合は、国民が議論するよりもその人に任せる方がよい」と思いますか。

(はい いいえ)

オ あなたは、「国会議員や知事、市長は、人々の代表として尊敬を受けるのが当然だ」と思いますか。

(はい いいえ)

4 ア あなたは、「労働者の発言力はもっと拡大されるべきだ」と思いますか。

(はい いいえ)

イ あなたは、「長い間日本に住んでいる外国人にも選挙権を与えるべきだ」と思いますか。

(はい いいえ)

ウ あなたは、「重要な地位につく女性の数を増やすために、政府はもっと制度を改革すべきだ」と思いますか。

(はい いいえ)

エ あなたは、「政府は金持ちと貧乏な人の収入の差をもっと縮めるように努力すべきだ」と思いますか。

(はい いいえ)

5 ア あなたは、「自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない」と思いますか。

(はい いいえ)

イ あなたは、「政治とか政府はあまりに複雑なので、自分にはよく理解できない」と思うことがありますか。

(はい いいえ)

ウ あなたは、「自分から見て非常に危険な法案が国会に提出された場合、国会だけに任さずに、反対運動をして効果をあげることができる」と思いますか。

(はい いいえ)

6 ア あなたは、「政府のサービスが悪くなくても、金のかからない小さな政府の方がよい」と思いますか。

(はい いいえ)

イ あなたは、「お年寄りや障害者は別にして、すべての人は社会福祉をあてにしないで生活しなければならない」と思いますか。

(はい いいえ)

ウ あなたは、「社会福祉は財政が苦しくてもできるだけ充実させるべきだ」と思いますか。

(はい いいえ)

エ あなたは、「充実した福祉はそれなりの高い負担を伴うべきだ」と思いますか。

(はい いいえ)

オ あなたは、「財政再建や社会保障の維持のためには消費税の引き上げはやむをえない」と思いますか。

(はい いいえ)

7 ア あなたは、「日本の防衛力はもっと強化すべきだ」と思いますか。 (はい いいえ)

イ あなたは、「日米安保体制はもっと強化すべきだ」と思いますか。 (はい いいえ)

ウ あなたは、「周辺諸国から日本に対してなされている歴史教科書をめぐる批判は、日本の内政に対する干渉だ」と思いますか。 (はい いいえ)

(はい いいえ)

エ あなたは、内閣総理大臣は靖国神社に参拝すべきだと思いませんか。 (はい いいえ)

(はい いいえ)

8 あなたが支持する政党はどれですか？

自民党 民主党 公明党 自由党 保守党 共産党 社民党 その他 なし

9 あなたが今、最も好感を抱いている政党をひとつだけ選んでください。

- 自民党 民主党 公明党 自由党 保守党 共産党 社民党 その他
- 10 あなたが今、最も嫌悪感を抱いている政党をひとつだけ選んでください。
自民党 民主党 公明党 自由党 保守党 共産党 社民党 その他
- 11 次の政党について、あなたはどの程度評価しますか。良くも悪くもない場合を 50 点とし、プラスなら 100 点の方へ、マイナスなら 0 点の方へ近づきます。10 点きざみで採点してください。
自民党() 民主党() 公明党() 自由党()
保守党() 共産党() 社民党()
- 12 あなたは、7 月 29 日の参議院選挙でどの政党に投票しましたか。
自民党 民主党 公明党 自由党 保守党 共産党 社民党 その他 棄権した
- 13 あなたは、7 月 29 日の参議院選挙でどの政党の候補者に投票しましたか。
自民党 民主党 公明党 自由党 保守党 共産党 社民党 その他 棄権した
- 14 投票する候補者あるいは政党を決めたのはいつですか？
選挙が公示された頃(あるいはそれ以前から) 1 週間ほど前
投票当日(自宅で 投票所で)
- 15 あなたが投票する政党あるいは候補者を決めるにあたって、影響が大きかったのはどれですか。次のなかから三つ以内で選んで下さい。
a.新聞の報道 b.テレビやラジオの報道 c.雑誌の報道
d.選挙公報 e.政見放送
f.政党の広告や宣伝(新聞やテレビ、ラジオ、雑誌などで)
g.政党のビラや機関誌
h.インターネットの情報(政党ホームページやメールマガジンの情報も含む)
i.周囲の人との会話や人間関係 j.公開討論会 k.その他
- 16 7 月 29 日の参議院選挙であなたが投票するにあたり、重視した点は何ですか。次のなかから二つあげてください。
a.支持している政党かどうか
b.支持している候補者かどうか
c.政党の政策や公約
d.政党のこれまでの実績
e.政党の党首や代表の人柄やリーダーシップ
f.候補者の政策
g.候補者の人柄
h.候補者のこれまでの実績や経歴
i.知人や所属している団体などに投票を頼まれたかどうか
j.比例代表と選挙区との票の使い分けを考えて
k.その他
- 17 次の組織や団体の中で、あなたが加入しているものすべてに をつけてください。
a.自治会・町内会 b.P T A c.同業者団体 d.農協・漁協 e.労働組合
f.生協・消費者団体 g.ボランティア団体 h.住民運動団体 i.市民運動団体
j.宗教団体 k.学校の同窓会 l.政治家の後援会 m.政党の職域支部等
- 18 あなたは、日本の政治にとって重要な課題は何だと思えますか。次のなかから三つ選んでください。
a.財政再建 b.景気対策 c.行政改革 d.税制改革 e.政治倫理・公務員倫理
f.介護保険・年金などの社会保障 g.教育改革 h.安全保障・防衛 i.地方分権

- j.男女共同参画の推進 k.環境問題 l.少子化対策 m.防犯・治安対策
n.外交 o.憲法 p.国際貢献 q.地震、防災対策 r.その他

19 日本では連立政権が一般化してきましたが、次のなかであなたがもっとも望ましいと思うのはどれですか。

- a.自民党、公明党、保守党による現在の連立政権
b.自民党中心の新たな組み合わせによる連立政権
c.自民党以外の政党による連立政権
d.自民党と共産党以外の、民主党や公明党などによる連立政権
e.自民党と民主党の連立政権
f.自民党単独政権
g.民主党単独政権
h.既存の政党の枠組みを崩した政策中心の連立政権
i.その他
j.わからない

20 次のいくつかの問題について、それぞれの政党の姿勢はどの程度だと思えますか。積極的（賛成）でも消極的（反対）でもない場合を 50 とし、積極的ならば 100 の方へ、消極的ならば 0 の方へ近づくとします。10 点きざみで点数をつけてください。

ア 規制緩和...規制を緩和するとともに、できるだけ民間に権限を移行させる

- 自民党（ ）民主党（ ）公明党（ ）自由党（ ）
保守党（ ）共産党（ ）社民党（ ）

イ 地方分権...地方にできることはできるだけ地方に任せる

- 自民党（ ）民主党（ ）公明党（ ）自由党（ ）
保守党（ ）共産党（ ）社民党（ ）

ウ 国民の負担...政府のサービスが低下しても国民の負担が少ない方がよい

- 自民党（ ）民主党（ ）公明党（ ）自由党（ ）
保守党（ ）共産党（ ）社民党（ ）

エ 景気...日本経済が活力を取り戻すためには一時的に失業が増えてもやむをえない

- 自民党（ ）民主党（ ）公明党（ ）自由党（ ）
保守党（ ）共産党（ ）社民党（ ）

オ 環境...経済成長がにぶったとしても環境を保護すべきである

- 自民党（ ）民主党（ ）公明党（ ）自由党（ ）
保守党（ ）共産党（ ）社民党（ ）

カ 靖国神社...総理大臣や閣僚は靖国神社に参拝すべきである

- 自民党（ ）民主党（ ）公明党（ ）自由党（ ）
保守党（ ）共産党（ ）社民党（ ）

キ 防衛...防衛予算を増額すべきである

- 自民党（ ）民主党（ ）公明党（ ）自由党（ ）
保守党（ ）共産党（ ）社民党（ ）

ク 情報公開...政治や行政の情報はできる限り公開すべきである

- 自民党（ ）民主党（ ）公明党（ ）自由党（ ）
保守党（ ）共産党（ ）社民党（ ）

ケ 教育...不況であっても国は教育にもっと予算を使うべきである

- 自民党（ ）民主党（ ）公明党（ ）自由党（ ）

保守党() 共産党() 社民党()

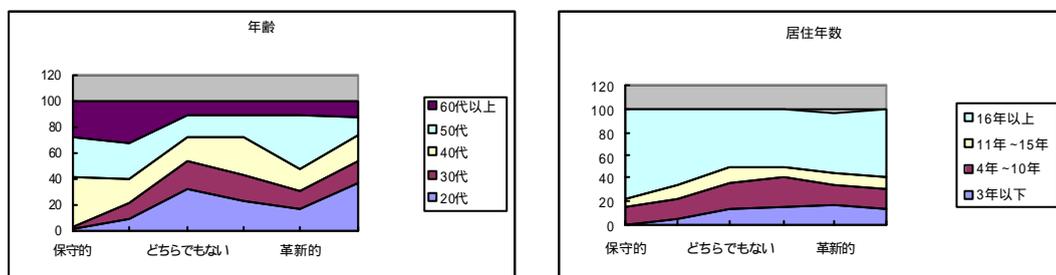
これらのなかで、最後の質問項目は政策の認識度を測るためのものであるが、回答数が極めて少なく、データとして扱うには不適切であると判断し、外さざるを得なかった。しかし、有権者が政策をどのように認識しているか、それが政治的な意識、さらには政党選択とどのように関連しているかという問題は、有権者の実際の投票行動を考える上で重要な要素であると思われるので、今後の課題である。

まず、調査対象者を、この「保守 革新」の尺度に沿って位置づける必要がある。ここでの「保守 革新」は主観的な感じ方の問題として扱われており、調査対象者に対して、自分自身を保守的と思うか革新的と思うか、5段階に分けた選択肢から回答してもらい、これにしたがって、有権者を「保守的」、「やや保守的」、「どちらでもない」、「やや革新的」、「革新的」の5つのグループに分けた。ほかに、政治的態度の認識度を見るために、「わからない」というグループを設けた。以下では、データをグラフ化したものを中心に、考察していくこととする。1998年に今回よりも規模の小さな調査(『富山国際大学紀要』 vol.9 1999.03)を行ったが、適宜それとの比較も行う。

保守比と社会的属性など

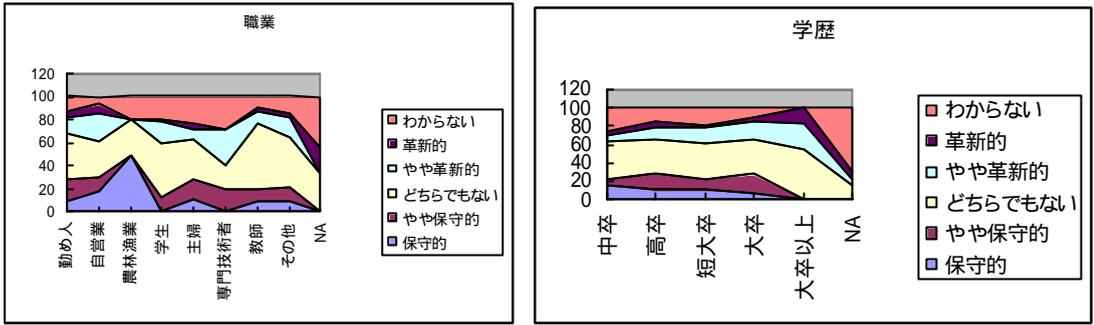
グラフは省くが、保守比については、「保守 革新」軸に沿って正規分布的な状態を示しており、偏りはない。また、男女比については、男性49%、女性50%である。

年齢は、政治意識に大きな影響を与える基本的な要因のひとつである。20・30代では保守的な人が少なく、20代は「どちらでもない」と「わからない」のグループで最も多くを占めている。「どちらでもない」のグループに関して言うならば、3年前と比べて、40代の比率が低下している。このグループは、20・30代によって支えられているようである。逆に、60代以上では保守的な人が多くを占めるようになる。50代は、保守的か革新的かが比較的明確になる傾向があり、これは3年前と同様である。保守層を支えているのは、40・50代と言ってよい。ただし、50代は「革新的」なグループで最も多くを占めており、このグループをも支えている。50代のこの傾向は、3年前の調査でも確認されている。

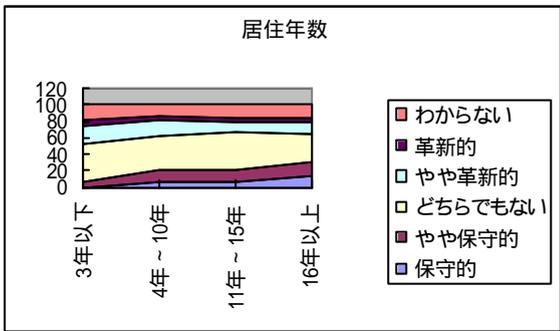


職業的な利益は、もっとも基本的な利益である。勤め人と自営業は保守と革新の両方に広がりながらも、全体としてはやや保守に傾いている。これらの職業は、3年前には保守 革新のイデオロギーをよく認識することが確認されたが、今回は、「どちらでもない」という回答が増え、いずれの職業においても最も多くの割合を占めている。農林漁業者は保守的な傾向が最も明確ではあるが、「どちらでもない」も少なくはなく、勤め人や自営業よりも「わからない」がやや多い。専門技術職の場合は、「どちらでもない」が相対的に少なく、やや革新側に傾いている。教師は「どちらでもない」の占める割合が最も高く、他の職業に比べると政治的意識との相関は希薄であるが、3年前に比べると比率が低下している点が注目される。学生や主婦の場合も、「どちらでもない」が多く、学生がやや革新側に、主婦がやや保守側に傾いている点は3年前と同様である。

学歴についてみると、高学歴になるに従って、「保守的」が減り、「やや革新的」が増えるが、「革新的」はほとんど変わらない。ただ、全体としての保守層でみると、あまり学歴の影響を受けないようである。また、学歴が上がるに従って、「わからない」が一貫して低下しており、保守か革新かを問わず、学歴はイデオロギーの認識度と相関するようである。一般的な学歴である「大卒」まででみると、「どちらでもない」はほとんど学歴の影響を受けない。いずれの学歴においても核になるのは「どちらでもない」であり、学歴が上がるにつれて「わからない」が減り、革新層がやや増加する。

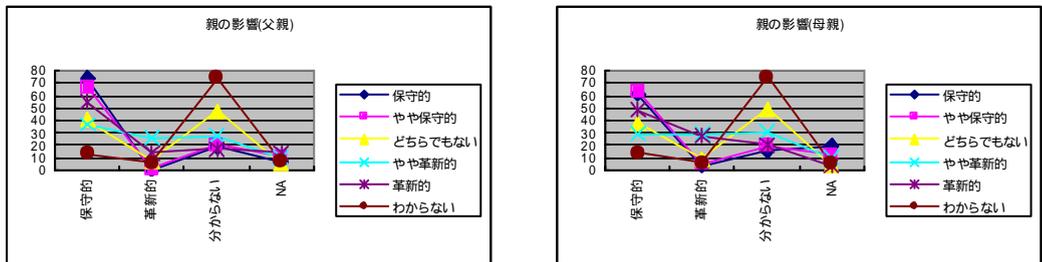


一般に居住年数が長くなると保守的な傾向を示すことが予想されるが、下のグラフによると、ほぼこの傾向が出ていることが指摘できる。「どちらでもない」は居住年数が長くなるにつれて多少減少するが、いずれの場合も核になっており、また、「わからない」はほとんど影響を受けていない。



世代間の伝達

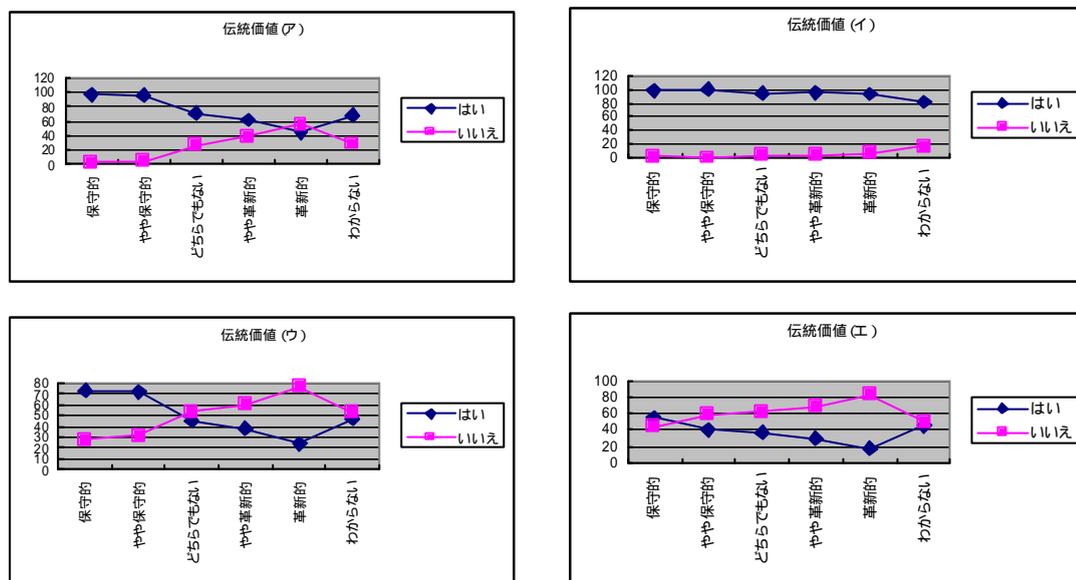
政治的な意識に対する親の影響をみると、保守的な有権者は自分の親を保守的と見る傾向があり、革新的な有権者は親を革新的と見る傾向がある。この点で世代間の伝達を指摘しうが、ほぼ保守いずれのグループにおいても親を保守的とみる割合の方が高い。また、「わからない」と「どちらでもない」のグループは、一般に親の政治的な態度を意識していない。「どちらでもない」の場合は、親を保守的とみる者も多いが、「わからない」のグループではほとんど認識していないようである。ここに非政治化のあらわれをみるか、政治的社会化の可能性をみるかはともかく、この両グループで有権者全体のかかなりの部分を占めるため、ここではこの傾向に注目しておきたい。



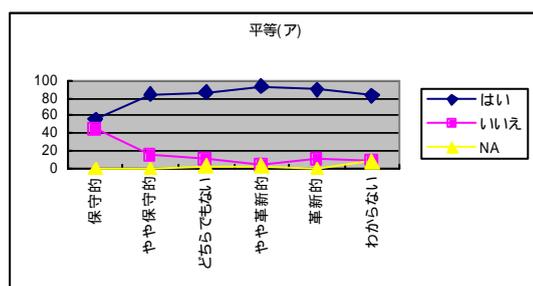
伝統的価値観

一般に、保守的な者は伝統的な価値観に対する支持が強く、革新的な者は近代的な価値観に対する支持が強いと考えられている。趣旨に反対でも町内の寄付を出すかどうか [伝統価値 (ア)] は近隣社会への同調性を問うものであるが、「わからない」というグループを除くと保革の尺度と相関しており、「革新的」なグループでは「いいえ」がわずかながら上回っている。「どちらでもない」

と「わからない」のグループは中間型とみなすことができよう。親孝行や目上の人に対する尊敬 [伝統価値 (イ)] は一種の権威主義的な傾向に関わるものであるが、いずれのグループでもほぼ一貫して肯定する考えが高い割合を占めており、政治的な意識とは相関していない。以下の (ウ) (エ) (オ) もいわば権威主義的な価値に関わるものであるが、人の長になる人の意思を尊重するかどうか [伝統価値 (ウ)] は、(ア) よりも一層明確に保革尺度と相関しており、さらに、政治家への委任 [伝統価値 (エ)] になると伝統価値 (ア) と逆転した傾向を示すに至っている。



また、長への尊敬 [伝統価値 [オ]] では、質問内容が (ウ) と類似する印象があったためか、ほぼ同様の傾向を示しており、保革尺度と明確に相関している。親孝行や目上の人に対する尊敬という非政治的で日常的な局面では政治意識と無関係に高い合意を見出すことができるが、社会生活や政治的リーダーシップに対する委任という局面では政治意識の持ち方と明らかな相関があるといえる。

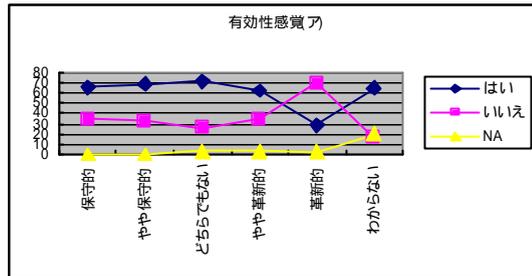
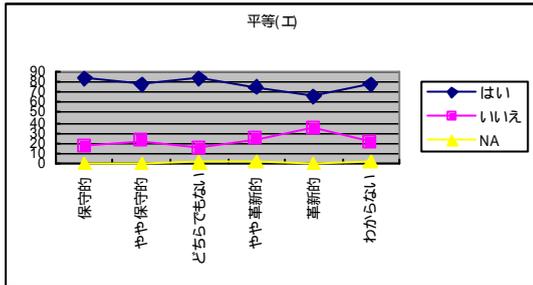
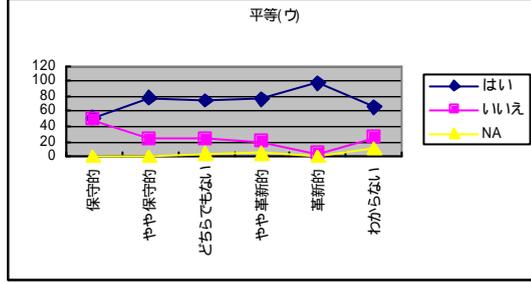
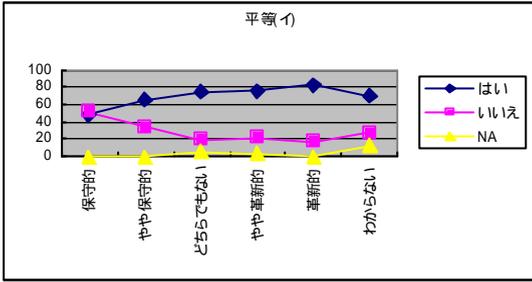


平等観

次に平等観の問題であるが、平等 (ア) から平等 (エ) をみると、全体としては高い合意度をみることができる。しかし、そのなかでも、労働者の発言力、外国人選挙権、女性の地位などで「保守的」なグループに支持する意見が相対的に少なく、逆に女性の地位や貧富の格差は正で「革新的」なグループが「保守的」なグループと異なった傾向を示しており、政治意識の持ち方が明確な有権者では、平等観に違いがあることがわかる。

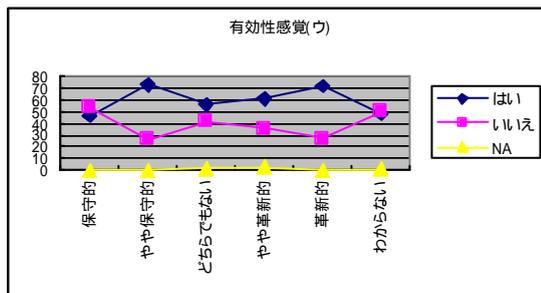
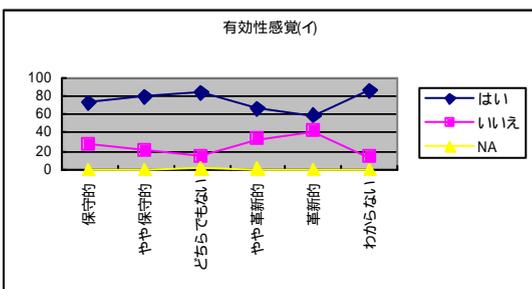
特に、「革新的」なグループの場合、3年前の調査では女性の地位向上への政府の努力に否定的な者が多かったが、今回の調査ではまったく異なった傾向を示しているし。また、前回の調査では、一般的な傾向とは異なり、格差は正の政府の努力は政治意識との相関があらわれていなかったが、今回の調査では「革新的」なグループで否定的な者が増えている。これは、逆の意味で一般的な傾

向と異なる。



有効性感覚

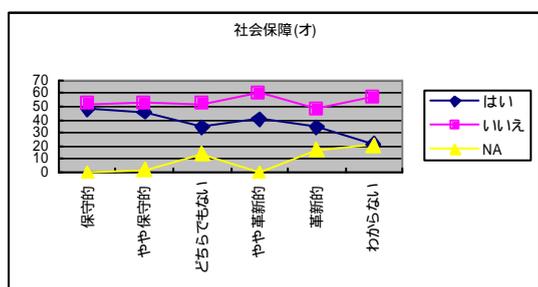
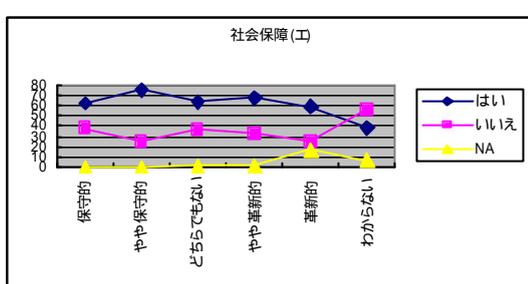
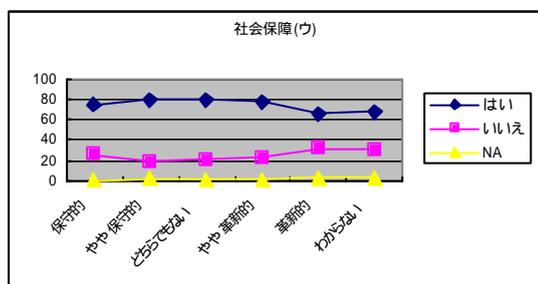
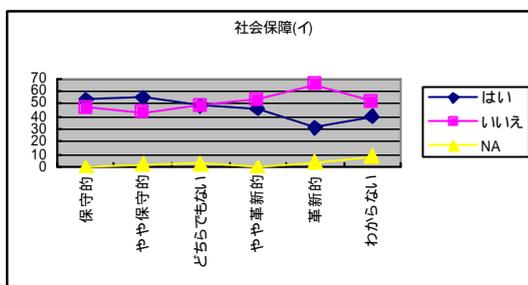
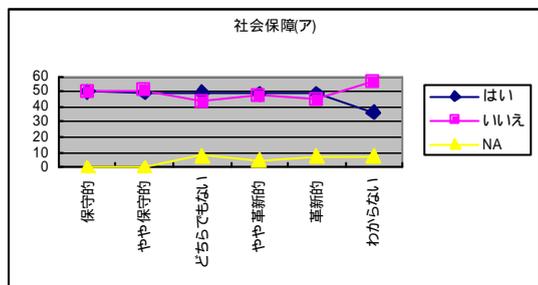
有効性感覚に関するデータを見ると、「政府を左右する力」において、「革新的」なグループだけが際立った傾向を示しており、他のグループでは顕著な違いがない。つまり、唯一「革新的」なグループだけが、政府を左右できると考えているのである。「政治の理解度」については、「革新的」なグループが「理解できる」と回答している者の割合が相対的に高く、「やや革新的」なグループがそれに続くが、いずれも「理解できない」とする者の方が多くなっている。「危険な法案に対する反対運動の効果」では、「保守的」なグループと「わからない」のグループで否定的な意見がわずかに上回っているほかは、いずれも肯定的な意見が多くなっている。これは、3年前の調査とは異なる傾向である。



社会保障と福祉国家観

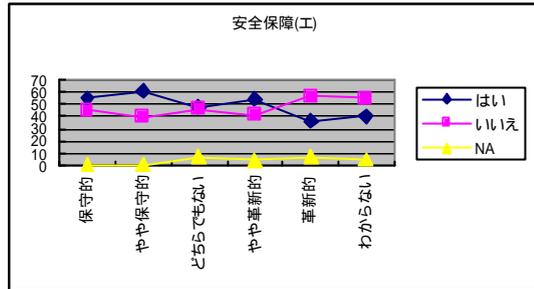
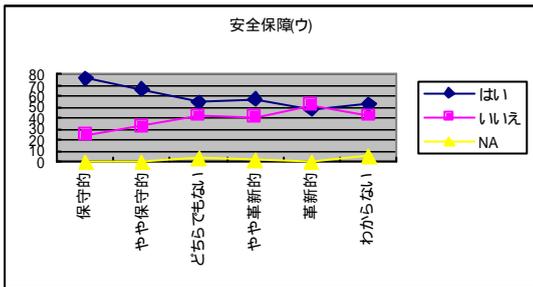
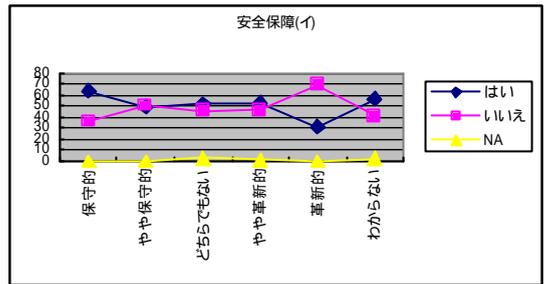
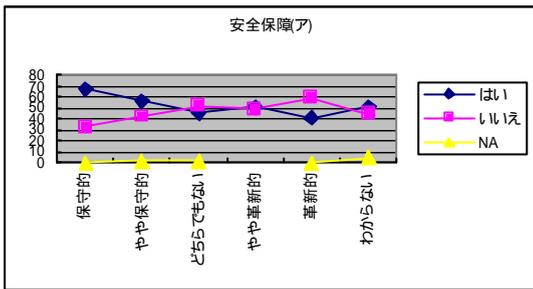
社会保障の項目は、福祉国家観に関するものである。現代国家は小さな政府への流れのなかにあるが、社会保障(ア)によると小さな政府に対する支持と不支持は政治意識と無関係にまったく拮抗しており、この点で「小さな政府」に対する合意があるとはいえない。また、社会保障(イ)の自助意識についても全体としては政治意識との相関が弱く、合意度が高いとはいえない。特に、「革新的」なグループでは否定的な意見が多くを占めている。現代の有権者には「小さな政府」を支持する下地があると言われることがあるが、この調査による限り「小さな政府」論が支持されているとは言い難い。しかし、3年前の調査と比べると、全体として小さな政府と自助意識に対する支持の割合は増加しており、注目すべきであろう。福祉の充実[社会保障(ウ)]では、「革新的」なグループがほかとやや異なるものの、高い合意度を見ることが出来る。社会保障(エ)は「高福祉高負担」の是非を問うものであるが、全

般に高負担への支持は高いといえよう。社会保障(オ)は、ひとつの例として消費税の値上げという具体的な負担増の問題を聞いているが、弱いながらも保革尺度との相関があらわれている。しかしながら、保守層においても値上げに対する支持と不支持はほぼ拮抗しており、それ以外のグループでは不支持が上回っているから、全体としては負担増への抵抗が大きいといえる。小さな政府への支持・不支持はどのグループにおいてもほぼ半々であったが、負担増については不支持が多い。



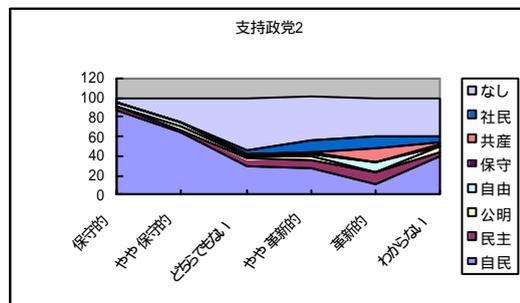
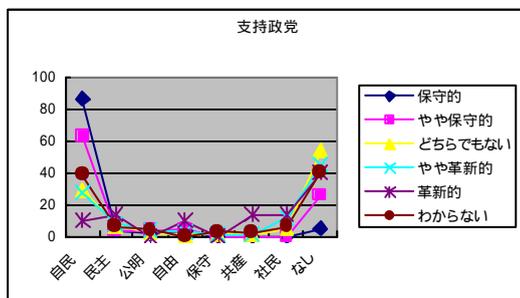
安全保障など

安全保障は、従来から保革の対立がもっとも鮮明にあらわれるもののひとつである。安全保障(ア)によると、「どちらでもない」と「やや革新的」のグループで支持と不支持が同水準になっており、ふたつの保守層では支持、「革新的」なグループでは不支持がそれぞれ上回っている。この点で、防衛力強化については保革尺度との相関をみることができる。安保体制の強化についても防衛力強化とほぼ類似した傾向があらわれているが、具体的な政策であるせいか、「やや保守的」なグループで支持がわずかに減少し、逆に「革新的」なグループで不支持が増加している。安全保障(ウ)と(エ)はナショナリズムに関わるものである。外国からの批判を内政干渉と考える者は保守層で圧倒的に多く、「どちらでもない」と「やや革新的」では接近しながらも内政干渉と考える者が上回っているが、「革新的」ではわずかに逆転している。全体としては、ナショナリズム的な傾向が示されているといえよう。内閣総理大臣の靖国神社参拝については、歴史教科諸問題ほど顕著な差が出ていない。賛否をみると「どちらでもない」がほぼ同水準で、「革新的」で反対が上回るが、歴史教科諸問題に比べると保守層で賛否が接近しており、「保守的」でも反対が40%を超えている。逆に、「革新的」なグループでも、反対する者が多いものの、賛成も40%近くある。保革尺度との弱い相関を認めることはできるが、靖国参拝問題はまだ国民的な合意を得ていないと考えることもできよう。



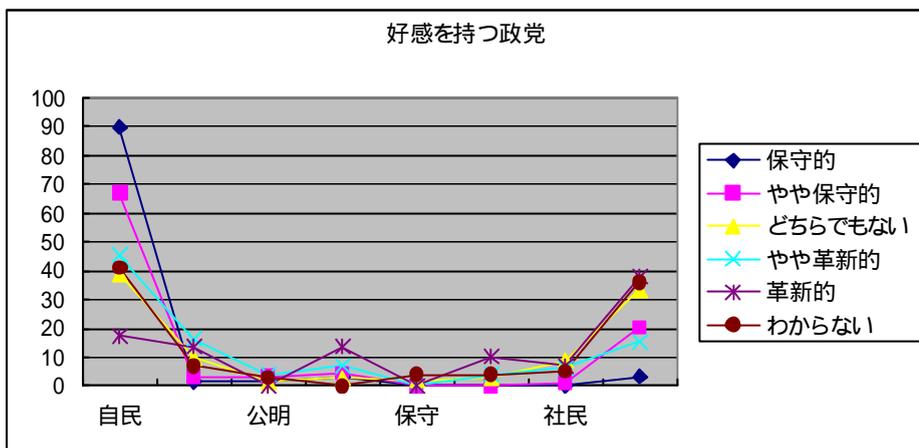
政党選択と投票行動

各グループの中で 50%以上が自民党を支持しているのは「保守的」と「やや保守的」のグループであり、このふたつのグループは自民党支持の基盤である。しかし、「やや保守的」で支持政党なしが 30%近くあることは注目すべきであろう。また、この二つのグループは、民主党、公明党、自由党に対してもわずかながら同程度の支持をみせている。「革新的」なグループにおいて最も多いのは支持政党なしであり、政党への支持はどの政党に対しても 20%を超えておらず、自民党以外の政党への支持を合計しても 50%程度である。また、「やや革新的」なグループは、自民党支持と支持政党なしに分極している。全体としては県内有権者が自民党支持と支持政党なしに大別されることが一目瞭然である。自民党は保守層から集中した支持を集め、「どちらでもない」、「やや革新的」、「わからない」などのグループからもそれなりに支持を集めているのに対して、それ以外の政党への支持は分散的である。また、野党のなかでは、民主、自由、社民各党がある程度広がった支持を得ているのに対して、共産党への支持は広がりを見せていない。なお、グラフが小さくて分かりづらいが、「保守的」と「やや保守的」では、社民党、共産党を支持している者はない。また、「どちらでもない」でも共産党を支持している者がごくわずかながらある。

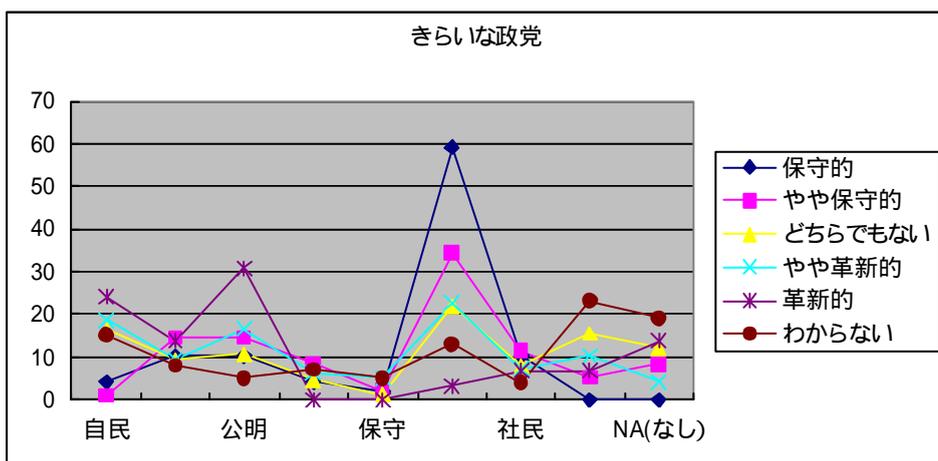


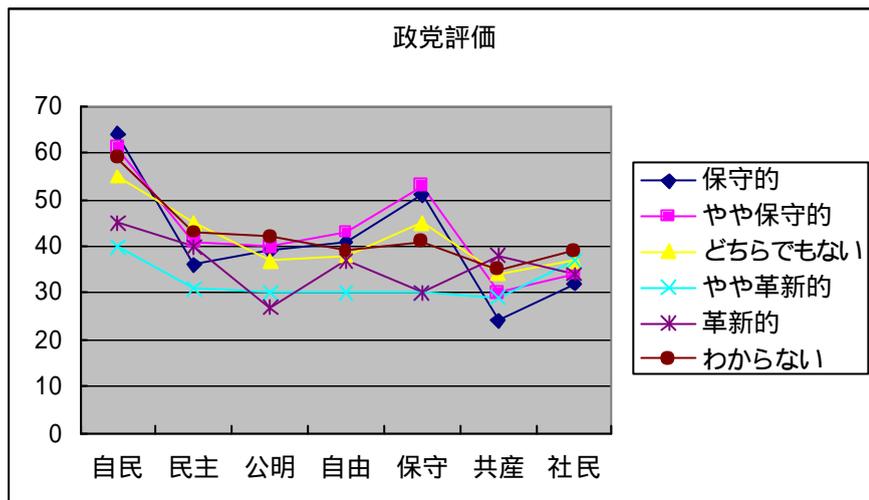
好感度という点では、支持政党の場合と比べて自民党が「どちらでもない」や「やや革新的」のグループからも人気を得て、全体のシェアを広げている。また、それ以外の政党も、支持政党の場合と比べると各グループへの広がりをみせている。特に、「ど

ちらでもない」と「やや革新的」なグループでは、自民党に好感をもつ者もそれ以外の政党に好感をもつ者も増えており、好感をもつ政党はないと回答している者が支持政党の場合の支持政党なしと比べて激減している。また、「やや革新的」なグループでは、支持政党の場合、自民党支持のポイントとそれ以外の諸政党支持のポイントがほぼ同程度であるが、好感度の点では自民党の方がポイントを伸ばしている。主にこれら二つのグループの傾向によって、好感をもつ政党はないという有権者が支持政党の場合の支持なし層と比べて減少している。実際の投票行動では、これらのグループの動向が大きく影響するかもしれない。



嫌いな政党で突出しているのは、共産党である。「保守的」、「やや保守的」はもとより、「どちらでもない」と「やや革新的」においても、共産党はもっとも嫌いな政党である。また、好感度の点で自民党が幅広く人気を集めていることを裏付けるかのように、自民党への嫌悪感「革新的」なグループで 20%を超えているだけである。自民党以外の政党については、政党への支持や好感度の場合とは違って、いずれも嫌悪感が幅広く分散している点が注目される。支持や好感度の点では比較的集中的であり、嫌悪感の点では分散的と言えるとするならば、野党第1党の民主党を含めてこれらの政党が安定的な支持を拡大することは容易ではないといえるであろう。





政党評価は、政党への評価を点数化したものである。良くも悪くもない場合を 50 点とし、100 点に近づくほど良く、0 点に近づくほど悪くなることを意味している。0 - 100 のスケールを使わないのは、ある程度絶対的な評価をみるためである。保革尺度のどのグループにおいても、最も点数の高いのは自民党であり、特に「保守的」、「やや保守的」、「どちらでもない」、「わからない」の 4 つのグループは自民党に 50 点以上の点数を与えている。また、「保守的」と「やや保守的」のグループは保守党に対しても 50 点程度の評価を与えているが、それ以外の政党に対する点数はいずれも 50 点を下回っている。同じように、「どちらでもない」と「わからない」のグループも、自民党以外の政党に対する評価は 50 点以下である。これらの 4 グループは積極的な自民党評価層といえるであろう。自民党に保守党を加えれば、保守的な政党に対する評価はかなり高いとみることができる。「革新的」と「やや革新的」のグループは自民党への点数がもっとも高いが、いずれも 50 点を下回っており、積極的な評価とは言いがたい。

各党への評価の差をみると、公明党と保守党はグループによる評価の差が大きく、反対に社会民主党は各グループの評価が比較的接近している。民主党、共産党、自由党はこの中間型といえる。

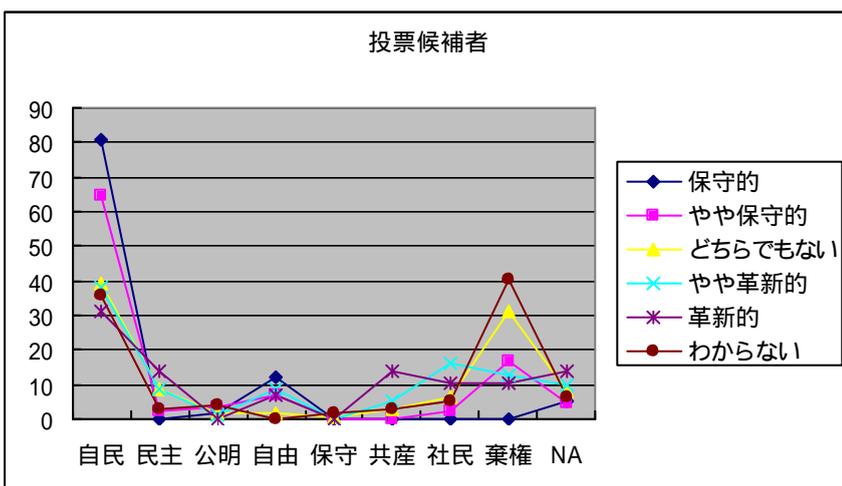
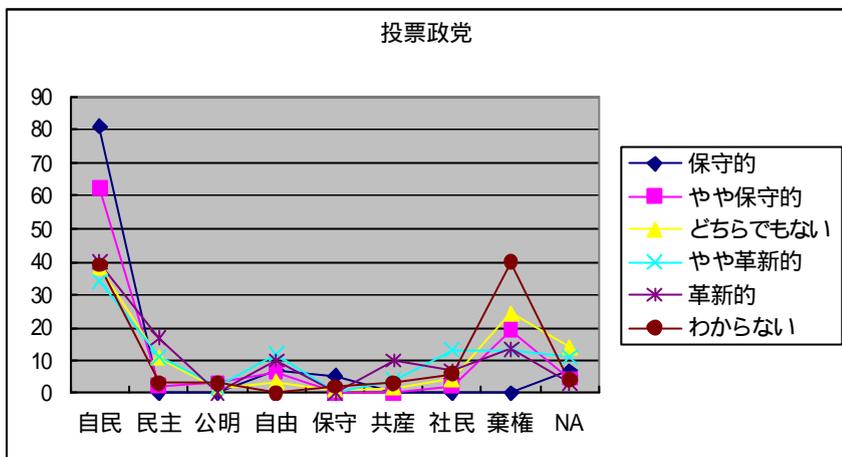
実際の投票政党をみると、最大の投票先は自民党であり、「保守的」なグループの約 80%、「やや保守的」なグループの約 60% が自民党に投票している。また、それ以外の 4 つのグループにおいても自民党は最大の投票先であるが、これら 4 つのグループで自民党に投票した者の割合がいずれもほぼ 40% 前後と同水準になっている点は興味深い。「革新的」なグループでは、民主党は自民党に次ぐ投票先であるが、それでも民主党に対する投票は 16.7% であり、このグループの自民党に対する投票の半分に満たない。また、「やや革新的」と「どちらでもない」のグループにおいても、民主党に対する投票は 10% 程度であり、他のグループについてはごくわずかに過ぎない。

保守層では自民党以外の政党への投票は低く、自由党に対して 6 - 7% 程度ある程度である。他方、「革新的」と「やや革新的」なグループでは、自由党への投票が 10% 程度ある。また、これらのグループでは、社民党や共産党への投票が保守層に比べてずっと増えている。

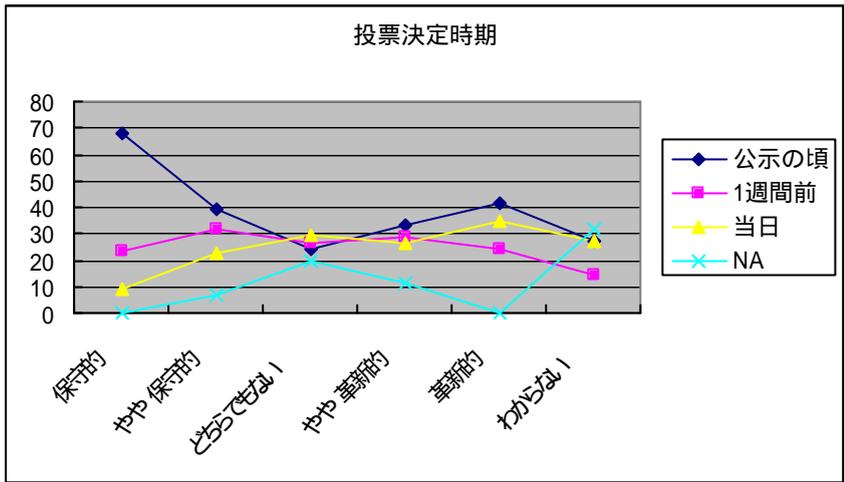
棄権をみると、棄権した者の割合が最も高いのは「わからない」のグループであり、40% もある。このグループは自民党への投票も 39% あり、自民党への投票が棄権かに大きく分かれていることが分かる。「どちらでもない」のグループでも棄権が 24.4% あり、およそ 4 分の 1 が投票していないことが分かる。また、「やや保守的」なグループでも 19.4% が棄権している。「やや保守的」、「どちらでもない」、「やや革新的」のグループにとって、棄権は自民党に次ぐ選択肢である。「革新的」なグループでは、民主党への投票が棄権を上回るが、両者の数値は接近している。

保革尺度に沿ってみると、保守的か革新的かが明確になるほど棄権が減り、保守層では自民党への投票が多くなる。他方、革新層では自民党以外の諸政党への投票が増え、合わせると自民党への投票よりも少し上回るようになる。自民党に対する反対票が、有力な投票先を見出せない様子が伺える。

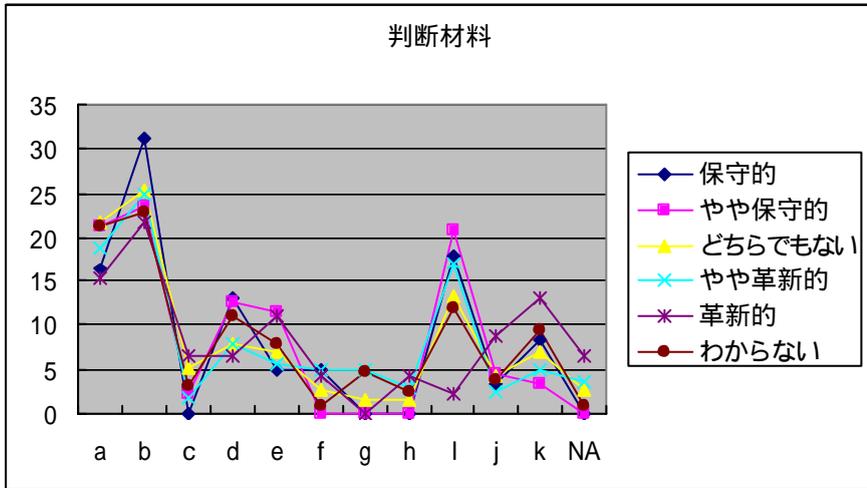
投票候補者は、投票政党と比べて特に有意な違いは出ていない。あとで投票にあたって[重視した点]についての傾向をみるが、選挙区と比例代表での票の使い分けは、最も数値の高い「革新的」なグループでも4%程度であり、全般に戦略的な投票があまり見られないことの結果であろう。



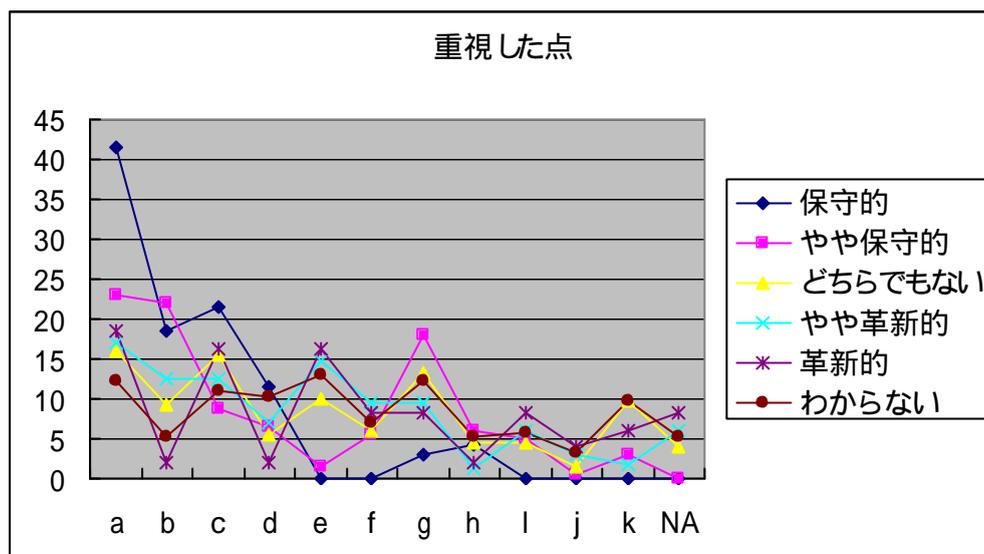
投票先の決定時期は、投票先への支持の強さをあらわすひとつの指標と考えることができる。この点から[投票決定時期]をみると、「保守的」なグループは公示の頃という回答が70%近くで圧倒的に多い。「革新的」なグループがそれについており、40%を超えている。政治意識の認識強度が強い者ほど早い時期に決定していることが分かるが、この傾向は保守的な有権者の場合に特に当てはまるようである。「やや保守的」と「やや革新的」のグループにおいても公示の頃が最も多いが、これらのグループは他の時期をも含めて類似した傾向を示していると言えよう。これら4グループの中で、「革新的なグループ」では、公示の頃について多いのが当日であり、他のグループと異なっている。当日という回答が最も高い割合を占めているのは「革新的」なグループであるが、このグループでは投票先の決定に迷う有権者が多いのかもしれない。



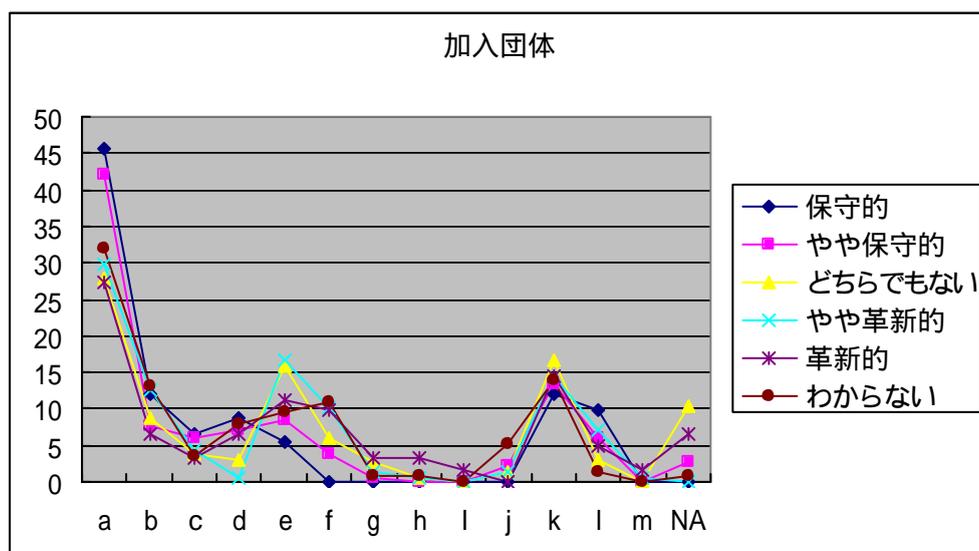
判断材料をみると、「テレビやラジオの報道」をあげる者が最も多いが、「選挙公報」や「政見放送」などの公的な媒体も比較的に利用されていることが分かる。しかしながら、ほとんどのグループにとって、「テレビやラジオの報道」について多いのは「周囲の人との会話や人間関係」である。「周囲の人との会話や人間関係」をあげている割合が高いのは「やや保守的」なグループであり、以下、「保守的」、「やや革新的」、「どちらでもない」と続くが、注目すべきは「革新的」なグループである。このグループは、他のグループと違って、周囲の人との会話や人間関係にほとんど左右されていない。



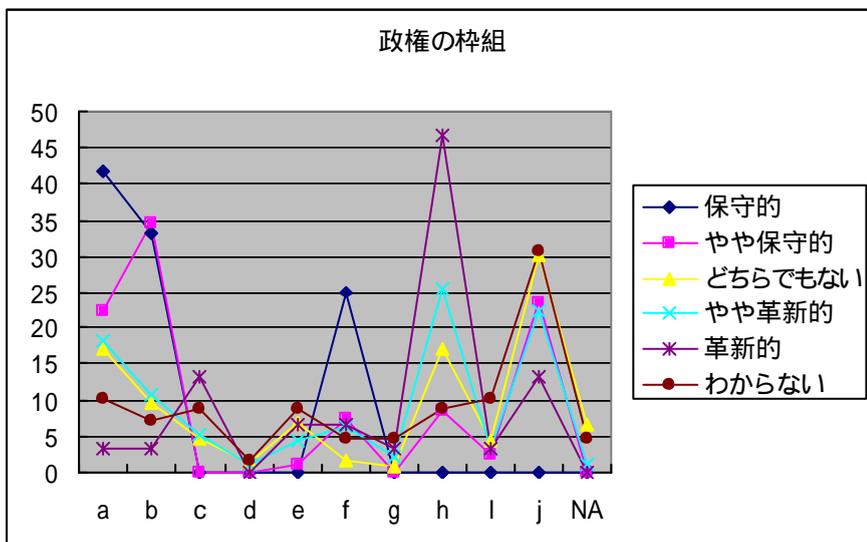
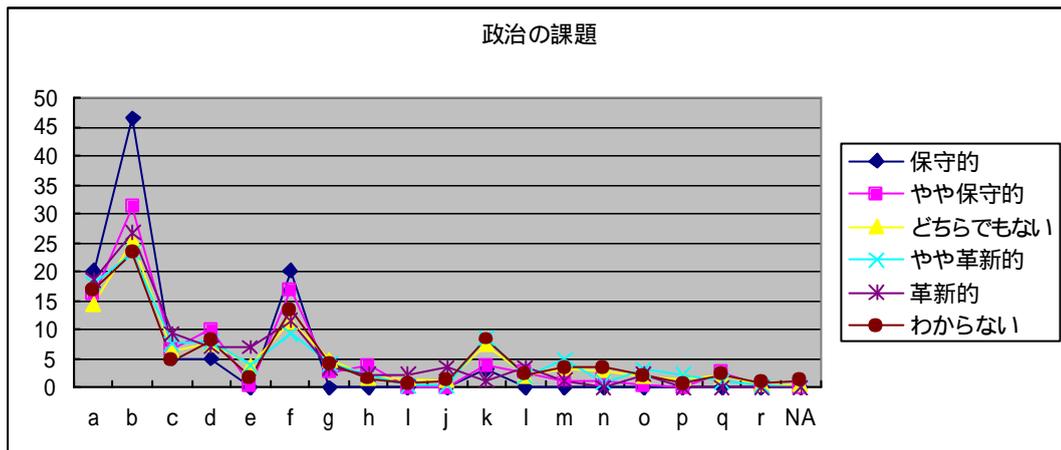
投票にあたって最も重視されているのは、「わからない」を除くすべてのグループにおいて「支持している政党かどうか」であるが、その程度は「保守的」なグループが最も強い。「保守的」なグループではこれに「政党の政策や公約」、「支持している候補者かどうか」が続き、これら3項目でおおよそ80%を占める。「政党の党首や代表の人柄やリーダーシップ」、「候補者の人柄」など人柄に関わる項目は無視しうるほどである。逆に、「やや革新的」、「革新的」では「党首や代表の人柄やリーダーシップ」が比較的重視されている。ただ、保守層が一般に人柄に無関心であるわけでない。「やや保守的」では候補者の人柄を重視する傾向が比較的強く、人柄は候補者個人に向けられるようである。革新層では、「支持している候補者かどうか」は、保守層に比べると相対的に弱くなる。また、候補者個人について言えば、保守層ではより人柄に、革新層ではより政策に傾く傾向があるようである。政策を重視する姿勢は、政党の選択において既存の枠組みを超えることもあるであろう。



各グループを通じて、加入団体で最も多いのは「自治会・町内会」であるが、なかでも「保守的」、「やや保守的」なグループで割合が高い。ついで「同窓会」への加入が多くなっているが、これは保革尺度とほとんど関連しない。「PTA」なども同様に、保革の問題とほとんど関連しない。「同業者団体」は、加入の程度は高くないが保革尺度に幅広く広がっている。「農協・漁協」は革新層にも多少の加入がみられるが、保守層での割合が高い。逆に、「労働組合」は保守層でもある程度の加入がみられるが、多いのは革新層である。「生協・消費者団体」は保守層で少なく、「どちらでもない」のグループや革新層で多い。「住民運動」や「市民運動」は、ほとんど「革新的」なグループに限られるし、「ボランティア団体」も保守層にはほとんどみられない。「政治家の後援会」への加入では、「保守的」なグループがほかのグループよりもやや高いものの、「やや保守的」、「やや革新的」、「革新的」の三グループにおいてもほぼ同程度にみられる。なお、「政党の職域支部」への加入は、革新層においても無視しうる程度でしかない。保革尺度からみると、各グループにおいて傾向の違いが多少あるが、むしろ全体としては類似性のほうが強いと言ってよいかもしれない。



政治の課題としては、どのグループにおいても「財政再建」、「景気対策」、「介護保険・年金などの社会保障」をあげる者の割合が高い。特に、「保守的」なグループでは、ほぼこの3つに集中していると言ってよい。「財政再建」や「社会保障」はどのグループにおいてもほぼ同じ程度の関心を集めるが、「景気対策」に関心を寄せる者の割合は「保守的」なグループで最も高い。また、保守的な層で「政治倫理・公務員倫理」をあげる者はほとんどいないが、革新的になるほど関心を集める傾向がある。ただ、全体からみた割合は高くない。また、「環境問題」は保革意識の弱いグループの方がより関心を集めるようである。全体としては、保守的にせよ革新的にせよ、保革意識の強いグループでは関心の集中する政治課題があるのに対して、保革意識の弱いグループではさまざまな課題に分散する傾向がある。



日本でも連立政権が馴染みのあるものになってきたが、最後に政権の枠組みについてみておく。もっとも明確な姿勢を持つのは、「保守的」と「革新的」のグループであり、特に「保守的」なグループでは、「わからない」という回答はなかった。「保守的」なグループは自民党・公明党・保守党による現在の連立を支持する者が最も多く、次いで自民党中心の新しい連立、自民党単独政権と続く。単独政権よりは連立を支持する者がはるかに多いが、いずれにおいても自民党を中心とみる姿勢が強く出ている。このグループでは、これ以外の回答はない。「やや保守的」なグループは傾向としてはこれに類似するが、「わからない」が多く、同時に政策志向の傾向が弱いながらも出ている。「革新的」なグループでは、「既存の政党の枠組みを崩した政策中心の連立政権」への支持が最も高く、46.7%もある。政党志向よりは政策志向と言えるかも知れない。ついで、自民党以外の政党による連立、自民党と

民主党の連立、自民党単独政権と続き、自民党への一定の評価があるが、枠組みとしての選好度は低く、特に後2者の割合は低い。しかし、民主党など野党の選好度が高いわけではなく、政党選択としては非自民党という姿勢がみえる。

保守的な意識の強い者ほど、自民党を中心とした政権選択の傾向があり、革新的な意識の強い者ほど、政党よりは政策中心の傾向があると言えるであろう。また、保革意識の弱い者ほど、政権の枠組みに関して「わからない」と回答する傾向がある。保革意識は政党選択とつながっているが、かつてのように自民党か野党かという択一的な形ではなく、自民党か政策かという重複的な形があらわれている点に注意すべきであろう。